

わが国の公共図書館における1960年代以降の〈文化活動〉の成立と普及に関する研究

岩井, 千華

<https://hdl.handle.net/2324/4475134>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (芸術工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名 : 岩井千華

論 文 名 : わが国の公共図書館における 1960 年代以降の〈文化活動〉の成立と普及に関する研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、近代日本において成立した公共図書館が、その経緯の中で変化させてきた社会的使命の変容を利用者の観点から批判的に検証している。

明治以降の公的な図書館で特権的な立場の人々が行ってきた利用の仕方から、戦後の占領軍による CIE 図書館での民主化の一環として行われた文化活動を経て、公共図書館の普及を目的とした〈文化活動〉と、その後の〈文化活動〉自体を目的とした歴史的経緯を俯瞰し跡づけた。

とりわけ戦後 1960 年代以降の社会的変化の中で培われてきた公共図書館の〈文化活動〉の成立と普及の過程を跡づけたものである。

近年の公共図書館に見られる市民参加型の〈文化活動〉の企画や制作過程からの参加、実践的成果を取り上げた。公共図書館が、〈文化活動〉を行うことでその可能性を広げてきたことを評価し、各地での人々の参加を伴った取り組みへ発展してきた経緯を把握し、今後の公共図書館の〈文化活動〉のあり方へ資する視座を導くことを目指した。

本論は、序章から結論を述べた第 7 章までの全 7 章で構成される。

第 1 章は本論の前史として、明治期以降の近代化を目指す日本が封建社会から脱し、イギリスから翻訳型ともいえる図書館を制度とともに成立させ、限定的な利用者による公的図書館をつくり、続いて、通俗教育の中から文化的活動を示した。第二次世界戦時中における図書館への国家介入や戦後占領下におけるアメリカが運営した CIE 図書館による文化活動を通じた新しい図書館像が示されたことを明らかにした。

第 2 章では、公民館と図書館を比較検討し、その歴史的背景の相違や補完関係を明らかにした。文化的活動の観点から公民館と公共図書館を比較し、相互教育と自己教育という役割の違いに着目した。

1950 年成立の図書館法が民主化と個人を確立させるレクリエーション思想を内包してはいても、1963 年『中小都市における公共図書館の運営』が導いた資料提供概念が方法論としての貸出業務に読み替えられたことが、その後の公共図書館像に大きな影響を与えることになった経緯を批判的に論証した。貸出による新たな利用者層の獲得は、市民社会に大きく貢献したものの、貸出を専らの評価軸としたことは、〈文化活動〉を含む図書館活動の可能性を限定的にしたことを明らかにした。

第 3 章は、1990 年以降の指定管理者制度が導入される中、市民がみずから声をあげ図書館創設へ向け活動した事例として、佐賀県伊万里市民図書館に着目、〈文化活動〉を共有し合う母親たちによる市民運動、行政による伊万里学創設、地域づくりを共に行う建築家が協働し、先進事例として高く評価された公共図書館創出の経緯を明らかにした。

第 4 章は文化的参加の意義に注目した。まち育て推進へ向けた人材育成として宮崎市立図書館によるボランティア司書事業で具体的な研修内容やボランティア司書へのインタビュー調査を通し、〈文化活動〉が市民の潜在的な能力を引き出すことを考察した。

第 5 章は全国的な有効例を選出し、実地調査ならびに参与調査を実施した。愛知県田原市中央図書館が高校生と協働した地域固有文化資源発掘型演劇事業、山口県山陽小野田市図書館中央館をプラットフォームとした市民による図書館創発会議、福島県富岡町文化交流センター学びの森での大学生による地

域再生、桜の聖母短期大学図書館情報センターお話し会が誘発した地域開放、親子への働きかけ、を複眼的な観点から〈文化活動〉の効果を評価した。

第6章では、公共図書館〈文化活動〉は、アウトリーチ・プログラムへの参加であると同時に、まちづくりへの主体的な参画を促し、旧来の文化的活動の範囲を超え、市民に身近な地域文化資源を再発見・再評価する機会となったことを明らかにした。〈文化活動〉の場をプラットフォームにすることがコミュニケーション醸成を促し、さらに〈文化活動〉が広報の役割を果たしうること、市民にとっての文化資本を形成しうること、等、新たな公共図書館利用の可能性を提示していった。

第7章は、以上の考察から結論を導いた。

本研究では、今まで貸出中心の印象の下にあった公共図書館が、貸出と補完関係にありながら、市民に開かれた〈文化活動〉の創造へ取り組んでいく必要性があることを述べ、プログラム構築の重要性を明らかにした。

また図書館を運営していく立場にある人々が、市民社会の幅広いニーズに答えるため、図書館司書課程での改善、公共施設運営に関わる能力形成研修、市民としてまちづくりに参加することの重要性を述べた。